

佐賀県果樹試験場の取り組み＜品種開発研究担当編＞

以前、「視察でほかの県の果樹試験場は行ったことがあるけど、実は佐賀の果樹試験場には行ったことがない」という話を聞いたことがあります。また、「佐賀の果樹試験場ってどんなことをしているの？」という疑問をお持ちの方もいらっしゃると思います。そこで、佐賀県果樹試験場の取り組みについて今月号よりシリーズで紹介したいと思います。

○試験場の概要について

佐賀県果樹試験場は小城市にあります。研究部門は「品種開発研究担当」「常緑果樹研究担当」「落葉果樹研究担当」「病虫害研究担当」の4つに分かれており（図1）、正職員およびパートの方を含めて約40名のスタッフが働いています。

○品種開発研究担当における取り組み

佐賀県オリジナル品種づくりを目指して、「おいしい・作りやすい・収益向上」をキーワードにカンキツ類の新品種を開発しています。

1) 温州みかん

消費者の要望に応じて同じ糖度でより酸切れの早い系統、より果皮色の赤い系統などを選抜しています（写真1）。一方、鳥栖市にある九州シンクロトロン光研究センター等において、シンクロトロン光などを利用した突然変異育種（写真2、3）により生産者が作りやすいような樹の特性を持つものを選抜しており、樹が大きくなる品種をコンパクトに作れるように改良したりしています（写真4）。

また、枝変わりなど今までと違う性質をもった系統を県内で探索し、有望かどうかの調査を行っています。

2) 中晩生カンキツ

優良系統をかけ合わせ、実が成りだしたものについて約20項目にわたる果実品質調査を行い（写真5）、優良と思われるものを選びます。それら系統について、高接ぎを繰り返してさらに栽培特性を把握し、最終的に新品種として登録していきます。普通の仕立て方ではタネをまいてから実が成りだすまでに時間がかかるので、1年でも早く実を付けて特性が評価できるように棚仕立てで苗を育成しています（写真6）が、交配してから品種登録までは10年以上が必要です。

また、国の試験場で育成したカンキツ新品種について、県内での栽培に適しているかどうか調査しています。

今年度は、交配して育成中の約1000系統のうち、結実したものについて事前調査で約340系統、果実品質調査についてはのべ440系統を実施しています。

3) 香酸カンキツ

体に良いとされる成分（ノビレチン）を多く含む香酸カンキツを選抜したり（写真、7、8）、温州みかんと同様シンクロトン光などを利用してトゲのない系統を作ったりしています。

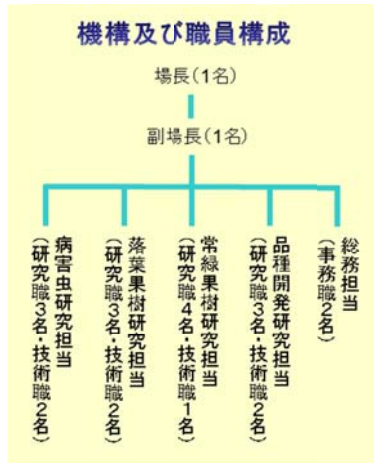


図1 果樹試験場組織図



写真1 育成中の新品種



写真2 シンクロ光試験装置



写真3 シンクロ光を当てた細胞部分から培養した植物体



写真4 選抜されたわい性今村温州（左側）



写真5 果実調査



写真6 中晩柑選抜用棚



写真7 機能性成分抽出・分析



写真8 機能性成分の多い香酸カンキツ群